



令和7年度 高等部 作業学習の実践事例

題材名：担当した作業を続けてしたり、でき具合を見直したりしながら、決めた仕方で
分担した作業を進め、注文を受けたトートバッグを作ろう

授業者：播磨 久美子

作業種目と教材を通して指導すること

本実践で取り上げたトートバッグは生徒の身の回りにもあり、作った製品を家庭で使用できるなど身近なものである。また、長さや織り目などの規格も決めやすく同じ手順を繰り返してできる作業が多いため、規格通りの製品を作るという確実な作業の指導に適している。

また、本実践では、教職員など身近な人からの注文を受けることにより、生徒が作業に取り組む目的やよい製品を作る必要性を感じ、自分から作業に取り組んだり、続けたりする態度、規格通りの製品を作るために決めた仕方で作業に取り組むこと、規格通りになっているかを見直しながら作業を進めたりすることなどが育てられると考えた。

中心となる内容の学習指導要領の段階と内容

職業・家庭科 中学部1段階【職業分野】A 職業生活 イ 職業

知・技:(ア)㊟ 作業課題が分かり、使用する道具等の扱い方に慣れること。

思・判・表:(イ)㊟ 職業に関わる事柄と作業や実習で取り組む内容との関連について気付くこと。

学 び:ウ 将来の職業生活の実現に向けて生活を工夫しようとする態度を養う。

配慮的な内容の学習指導要領の段階と内容

数学科 中学部2段階 A 数と計算 イ

知・技:(ア)㊟ 3位数や4位数の加法及び減法の計算の仕方について理解し、計算ができること。また、それらの筆算についての仕方を知ること。

数学科 高等部1段階 A 数と計算 オ

知・技:(ア)㊟ 2位数や3位数に1位数や2位数をかける乗法の計算が、乗法九九などの基本的な計算を基にしてできることを理解すること。また、その筆算の仕方について理解すること。

題材目標

知・技	底作りの作業をする時、決めた仕方がわかり、底縦バンドを底横バンドに編み込み、接着する作業に決めた仕方で取り組む
思・判・表	自分が担当する作業に取り組む時、自分が担当した半製品や材料がなくなるまで、底作りの作業に決めた仕方で続けて取り組む
学 び	毎回の作業で決めた仕方で自分が担当した作業を終えるまで取り組む
配 慮	加法や乗法を用いて売り上げの合計金額を計算して伝票に記入する

授業評価

知・技	底縦バンドの端から38cmの位置に印をつける、編み目が互い違いになるように底縦バンドを底横バンドに編み込む、編み込んだバンドの最上列の裏に接着剤を付けて底縦バンドと底横バンドを接着するなど、決めた仕方で作業に取り組むことができた。
思・判・表	印の位置を合わせて底縦バンドの長さをそろえる、編み目が互い違いになるように編み込むなどして決めた仕方で作業を進め、半製品が1つできる度に次の半製品と材料を取りに行き、自分が担当した底作りの半製品や材料がなくなるまで作業に取り組むことができた。
主 体	決めた仕方で作業に取り組み、自分が担当したすべての半製品や材料がなくなるまで作業を続ける姿が題材後半の毎回の作業で見られた。
配 慮	注文数と金額を確認して、「800×2」などと立式して合計金額を求め、伝票に記入することができた。

ポイント

仕方を理解するための題材計画の工夫

1	2・3	4・5	6・7	8・9	10・11	12～21
作業に意欲と課題をもつ	ボンドで接着する(完成)	印に沿って長さをそろえる	編み込み方に目をはめる	編み込む	印をつける	すべての工程に一人で取り組む

終

始

規格通りの半製品ができたという経験を積み重ねることで、確実な作業をすることのよさが理解できるように、最後の手順からさかのぼりながら一連の手順に取り組むようにした。一つひとつの手順を決めた仕方で、自信をもって取り組むことができるようになった。

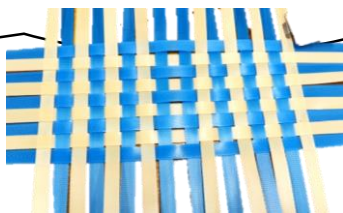
良品を作るためのポイントを焦点化し、スモールステップで作業を進めていきました。今では、人に教えることもできるようになりました！



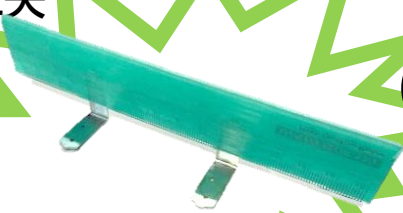
ポイント

安全に、手際よく作業するための治具の工夫

バンドの編み目を指で詰めても、指先が痛いし隙間ができない・・・これは何か工夫が必要だ！！



これを使ってみたらどうですか？



確かに詰まる！隙間ができたなら、どんどん編めるようになった！



・編み目の幅に合った金具を使用し、2か所に差し込んで詰めたい方向に動かす



考察

○グループのメンバーで授業毎に作業のポイントを出し合い、一度につける接着剤の量や編み込むときに気をつけること、印をそろえることなどの意見を書いて掲示し、溜めていくことで、次時も作業のポイントを引き継いで取り組むことができていた。

●接着剤をつける工程が最後にあることから、作業時間内に接着剤が乾かず、できた半製品は次時に次の工程で使用したため、他の工程とのつながりがやや希薄であった。今後は、自分がした作業と製品の良否や、各工程とのつながりが理解できるように、接着剤のはみ出しや接着不良など良否の確認を通して意見をもらうなどしていきたい。